

一般社団法人 日本フルードパワー工業会

本 部：〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8号 機械振興会館内
 TEL. 03 (3433) 5391 FAX. 03 (3434) 3354
 西日本支部：〒660-0891 兵庫県尼崎市扶桑町1番10号 住友精密工業(株) 本社内
 TEL. 06-6489-5861 FAX. 06-6489-5905

—国際講演会の開催—

9月5日(水)、国際委員会主催、(一社)日本歯車工業会共催で、東京大学社会科学研究所丸川知雄教授を講師としてお招きし、「中国のイノベーションと中国製造2025」という演題で講演会を実施しました。中国製造2025は、今最もホットな米中貿易戦争の種となってしまった中国の政策であります。要旨は、以下の通りでした。



「中国製造2025」の概要

2015年、国務院発の重要政策として発表され、数値目標を設定しているところに特徴がある。

主 要 目 次

ISSN. 1345-2371

国際後援会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	技術調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
委員会開催・活動状況		広報PR事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
国際交流事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3	中小企業関連事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
標準化事業／ISO対策事業・・・・・・・・・・	3	今後の行事予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
標準化事業／規格事業・・・・・・・・・・	3	統計資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10

(一社) 日本フルードパワー工業会

URL <http://www.jfpa.biz/>

これを策定した背景には、①中国の製造業は大きくなったが強くない。自主创新能力、資源利用効率、産業構造のレベル、情報化の程度、品質効率などにおいて先進国との差が大きい。②先進国は「再工業化」を図り、後発国が製造業を発展させ、中国は間に挟まれている。と中国政府は認識し、国家の安全を保障し、世界の強国となるためには、国際競争力のある製造業を持つことが必要であるとの判断で作られたものである。そのための、ステップとして、

- ・第1ステップ：2025年までに製造強国の仲間入りをする
- ・第2ステップ：2035年までに世界の製造強国なかの中程度のレベルに到達する
- ・第3ステップ：建国100周年の時点では製造大国の地位を固め、総合的实力では製造強国の前列に立つ

ことを目標に掲げた。そのためには、定期的に重要な産業分野における技術発展のロードマップを作る。国家の科学技術計画に基づき核心技術の開発を推進し、情報技術、AI製造、新材料など共通性の高い技術の発展のため製造業創新センター（工業技術研究基地）を2020年までに15か所、2025年までに40か所前後作り、2020年までに核心的な部品と重要な基礎材料の40%は「自主保障」を実現させ、更に2025年までには上記の70%の「自主保障」を実現するというものである。

「中国製造2025」の問題点として、以下の点を指摘された。

- ①「強い製造業」とはどういう意味なのか？ 先進国と同じものを作れるようになることが「強くなること」なのか？ 「核心的な部品」を握り、それによって大きな付加価値を獲得することだろうか。
- ②しかし、IntelやQualcommのICを中国製で置き換えたとして国民にはどんな利益があるのだろうか。
- ③見え隠れするのは「安全保障としての国産化」の発想である。ZTEに対するアメリカの「兵糧攻め」によって、懸念が現実化しかけた。
- ④他方、欠けているのは国民の福祉の向上のための製造業、国民が豊かな生活を送るための製造業という視点である。

そして、例として、中国の高速鉄道にみるキャッチアップ志向の限界を指摘した。具縦的には、鉄道は国民の生活に密着しており、社会的背景とニーズは国によって異なるもので、外国の仕組をそのまま導

入することには限界がある。例えば日本の新幹線は国土の形状、大都市駅の拡張困難といった条件に適応している。しかしながら、中国の高速鉄道は何か国内の条件やニーズに適応しようとしていない。むしろ利用者が鉄道事業者の自己満足に適応することを求めている。例えば、旅客のトリップ全体の時間効率への配慮がない駅の立地や、土地利用効率を考慮している形跡もなく、そして、インターネットで予約し、駅で発券できるようになったのは進歩であるが、改札方式は中国の鉄道の昔ながらのやり方でやはり不便で、改善する余地がある。

また、中国製造2025は、研究開発への補助や技術センターの設立など、先進国でも実施しているような政府の補助が主であるが、鉄道車両、発電設備、農業機械、船舶、素材など国有企業をテコ入れする口実となっている側面と核心技術の国産化を目指す傾向が強く、日本やアメリカとの国際分業関係を否定することになってしまいます。しかし、製造業の省エネ、低炭素化は先進国としても歓迎し、支持すべきことであり、R&Dの強化も、それが中性的政策であれば肯定できるのではないかと。他方これが、米中貿易戦争の一つの要因となっているのは否めなく、具体的には、①通商拡大法232条（鉄鋼に25%、アルミに10%の関税を課す）、②通商法301条（7月に中国からの輸入340億ドル分に25%関税引き上げ、9月に160億ドル分。さらに1000~2500億ドルの輸入にも関税かけると）、③通信機器メーカーのZTEに対する制裁として、4月16日、米商務省が米国企業に対して今後7年間は中国の通信機器メーカー、中興通信（ZTE）に部品を売ることを禁じると発表したが、6月の米中交渉により罰金14億ドルを払うのと引き換えに禁輸措置は解除された、しかし、米連邦通信委員会（FCC）は、ZTEと華為の通信機器を米国の通信会社を買うことを禁じた。などの措置をアメリカは実施した。

いま中国で「新四大発明」と呼ばれているのは、ネットショッピング、自転車シェアリング、QRコード決済、高速鉄道であるが、このうち「中国製造2025」で挙がっていたのは高速鉄道のみ。他の3つがこれほど拡大することを2015年に出た政策でさえ予測できなかった。自転車やQRコードはもう「枯れた技術」と思われていたわけで、今中国では、科学技術者たちが忘れていたような技術に新たな可能性を吹き込みに実用化している。これこそがイノベーションである。ドローン、自転車シェアリング、スマホ・マネーなど次々に現れるイノベーションには大きな可能性を感じさせる。中国のIT大手（BATJ=

百度、アリババ、テンセント、京東) がベンチャー投資を活発に行い、巨大な国内市場と機会を狙うベンチャーキャピタルによって、アイデアが次々と大きな事業になっている。自転車シェアリングが一世を風靡したが、企業の倒産やデポジットの未返還、道路の混乱など多くの問題も起こしている。素早い参入→混乱と素早い退出、という中国の産業のパターンを繰り返している点にも特徴がある。

以上

~~~~~

#### 国際交流事業

~~~~~

日 時 9月5日(水)

場 所 機械振興会館 6階6D-4会議室

出席者 新開国際委員会委員長、他25名

事務局 藤原、鎌原、堀江

冒頭記事参照

~~~~~

#### 標準化事業/ISO対策事業

~~~~~

油空圧シール分科会

日 時 9月11日(火) 13:00~16:00

場 所 機械振興会館6-64会議室

出席者 南主査以下12名

事務局 前畑

議 事

まず、前回の議事録について確認し、特に問題なく承認された。

次いで、ISO投票案件の審議を行った。ISO/CD 7425-1及び7425-2については、Rmrの削除、図示寸法に対する規定が必要等の指摘があり、コメント付き賛成で投票することとした。ISO/SR 3939及び7986については、特に指摘がなく、Confirmで投票することとした。

次いで、来月開催のISOフランクフルト国際会議でのアジェンダについて、内容確認し情報共有した。

最後に、JFPS 1003(油圧シリンダ用パッキンの使用・選定指針)の見直しについて、前回指摘事項の修正版の審議を行った。また、パッキン材料記号の記載削除については、使用者サイドの意見としてシリンダ分科会からJFPS 1002とJIS B 8354に記載がある旨を解説に記載することを条件に了解が得られたため、その方向で修正することとした。

次回開催:11月9日(金) 機会振興会館

発行されたISO規格

(TC131)

ISO 8139:2018:Pneumatic fluid power -- Cylinders, 1 000 kPa (10 bar) series -- Mounting dimensions of rod-end spherical eyes

ISO 8140:2018:Pneumatic fluid power -- Cylinders, 1 000 kPa (10 bar) series -- Mounting dimensions of rod-end clevises

投票に付されているISO規格案(FDIS, DIS)

(TC118)

ISO 28927-8:2009/DAmD 2:Hand-held portable power tools -- Test methods for evaluation of vibration emission -- Part 8: Saws, polishing and filing machines with reciprocating action and small saws with oscillating or rotating action -- Amendment 2

(TC131)

ISO/DIS 5783:Hydraulic fluid power -- Code for identification of valve mounting surfaces and cartridge valve cavities

~~~~~

#### 標準化事業/規格事業

~~~~~

油空圧継手・ホース分科会

日 時 9月5日(水) 13:00~16:00

場 所 機械振興会館6-64会議室

出席者 板井主査以下7名

事務局 前畑

議 事

まず、前回の議事録について確認し、特に問題なく承認された。

次いで、投票に掛かっているISO/DIS 10763について審議した。各委員で検討した結果を主査に連絡し、判断することとした。

次いで、6月に開催された平成30年度技術・標準化委員会について、主査より、昨年度活動実績及び今年度活動計画が承認されたとの報告があった。

次いで、ISO/TS 17165-2のJFPS化について、主査の方で取りまとめた原案について討議した。同様規格の日本ホース金具工業会・日本ゴムホース工業会版の規格と違いをどう記述するかについて検討する必要があるとの意見が出された。

最後に、来年度以降の JIS 見直し案件について審議した。各委員で確認の上、判断することとした。
次回開催：11月22日(木) 機械振興会館

空気圧システム分科会

日時 9月6日(木) 13:00~16:00

場所 機械振興会館 6-63 会議室

出席者 増尾主査以下 6名

事務局 前畑

議事

まず、前回の議事録について確認し、特に問題なく承認された。

次いで、JIS B 0125-1 (油圧・空気圧システム及び機器—図記号及び回路図—第1部：図記号)の改正について討議した。各委員から担当分に関して検討結果を説明し、改正必要項目の内容を審議した。

次回開催：10月9日(火) 機械振興会館

油空圧シリンダ分科会

日時 9月7日(金)、13:00~16:00

場所 機械振興会館 6-64 会議室

出席者 渡部主査以下 4名

事務局 前畑

まず、前回の議事録について確認し、特に問題なく承認された。

次いで、JIS B 8366-3 及び JIS B 8366-4 の改正について、前回の指摘事項の修正を確認した。本原案にて、規格調整として規格協会へ提出することとした。

最後に、シール分科会から同分科会で審議中の JFPS 1003 の改正に関して、規格内容がシリンダ分科会に関連するため検討依頼があった。検討の結果、パッキンの材料記号を廃止することは了承するが、①JIS B 8354:1992 に掲載されていたこと、②JFPS 1022 に材料記号が使われている、の2点について解説に記載すべきとの見解で、シール分科会に報告することとした。

次回開催：12月7日(金)、機械振興会館

空気圧流量測定分科会

日時 9月20日(木) 13:00~16:00

場所 機械振興会館 6-64 会議室

出席者 妹尾主査以下 7名

事務局 前畑

議事

委員の交代があり、若原委員 (TAIYO) から小関委員 (TAIYO) に交代された。

まず、前回の議事録について確認し、特に問題なく承認された。

次いで、ISO 投票に掛かっている ISO/CD 6358-2 Approval of PL Observations について審議し、特に問題ないため賛成で投票することとした。

次いで、ISO ロンドン会議にて日本が担当することになった ISO 6358-1:2013 Amd 1 (有効コンダクタンスの附属書) の原案について審議し、本原案にて SC5/WG3 事務局へ提出することとした。

次いで、JIS B 8390-2 流量特性試験—代替試験—について、JIS 自体の誤記、ISO 規格の誤記及び実用上の問題点 (条件によっては計測時間が掛かり過ぎる等) があることが判明し、修正版発行について規格協会に確認し対応することとした。

最後に、JIS B 8372-3 (空気圧—空気圧用減圧弁及びフィルタ付減圧弁—第3部：減圧弁の流量特性の代替試験方法) の改正について審議した。前回に引き続き ISO 6953-3 原文と比較しながら原案修正作業を実施した。

次回開催：12月13日(木) 機械振興会館

空気圧継手・チューブ分科会

日時 9月25日(火) 13:00~16:00

場所 機械振興会館 6-60 会議室

出席者 浅里主査以下 5名

事務局 前畑

議事

委員の交代があり、條委員 (SMC) から高梨委員に交代された。

まず、前回の議事録について確認し、特に問題なく承認された。

次いで、本年5月に開催されたロンドン国際会議に参加できなかったため、発行された議事録を確認し情報共有した。

次いで、JIS B 8381-1 の改正について審議した。前回に引き続き、各委員にて行った継手サイズ調査結果に基づき規格本文の見直し作業を行った。

次回開催：11月12日(月) 機械振興会館

油圧フィルタ・作動油分科会

日時 9月26日(水) 13:00~16:00

場所 機械振興会館 6-63 会議室

出席者 難波主査以下 5名

事務局 前畑

議事

まず、前回の議事録について確認し、特に問題なく承認された。

次いで、10月開催予定のISO/TC131/SC6国際会議(中国・新郷)のスケジュール、アジェンダについて説明があり、情報共有した。

次いで、ISO 18413の新規JIS化について審議を開始した。各委員の担当分に関して、検討結果とISO規格原文とを比較しながら、JIS原案文面の作成作業を実施した。

次回開催：11月14日(水) 機械振興会館

発行されたJIS

JIS B 8376：空気圧用速度制御弁

JIS B 8390-2：空気圧-圧縮性流体用機器の流量特性試験方法-第2部：代替試験方法

~~~~~

技術調査事業

~~~~~

ADS国際標準化推進委員会(第3回)

開催日 9月10日(月)

場 所 機械振興会館B3-2会議室

出席者 池尾委員長以下16名、

事務局 藤原、宮川、前畑、大橋

議 事

1. ADS国際標準化委員会大日程の確認

資料に基づいて現在までの実績と今後の予定について事務局より説明した。

また大野ADVより、9月5日から7日にかけて眞田先生とともに訪問した韓国KIMMへの出張報告がなされた。

2. 平成30年度WG-A~E実施計画

配布した各大学の実施内容及び概略日程集及び画像に基づき、WG-C1、WG-C2、WG-Eに関して鈴木委員、信州大学学生、柳田委員からそれぞれ実施実績と新たに取り組む実験内容及び日程計画が報告された。

3. ISO-TC131再提案規格WD-ポンプ試験方法

WG-Dの実施成果を基に作成した、ISO-TC131に再提案予定のポンプ試験方法案(ISO-WD stage)、

“Water-hydraulics - Water-hydraulic pump - Methods of testing and representing basic steady-state performance”の最新版を事務局より披露した。アドバイザーからの2件のコメント集に対する回答と主な修正内容を紹介し、今後、さらに企業側委員による検討を進め、完成度を高めていく予定であることを報告した。

TC131への提案は予定通りISとして実施し、日程はISOパートナー候補国などとの接触状況などを考

慮し改めて判断することとした。

次回開催：

第4回委員会は11月中旬開催として別途調整。

技術委員会 水圧部会(第2回)

日時 9月11日(火) 15:00~17:00

場所 機械振興会館 B3-2号会議室

出席者 宮川部会長以下13名

事務局 大橋

1. 市場調査(MR)グループ関連

田辺委員よりIFPEX2017の出席総括として、「来場者の業界と興味の度合い」に関する分析と市場マップへの反映結果の紹介があり、意見交換の後、報告書の提出により作業を完結することとした。

今後の市場調査として、東京開催予定の見本市一覧の紹介があり調査希望者を募ることとした。

2. 広報PR(PR)グループ関連

鳥居委員よりブログ更新実績とアクセス状況の報告があり、事務局より2010年のブログ開設以降の記事カテゴリーの傾向が披露された。今後も委員からの記事提案を継続することとした。

次回開催：平成30年11~12月とし別途調整

技術委員会空気圧部会第551回特許分科会

日 時 9月21日(金) 13:00~17:00

場 所 機械振興会館 6-61

出席者 細田幹事以下4名

事務局 吉田

議 事

はじめに前回議事録及び配付資料の確認を行った。公報の検討と無効理由調査について、ウォッチング対象の案件については経過を観察していくこととした。1件については引き続き調査を行うこととした。1件については配信された見解書案を確認した。1件については新たな証拠資料の発見が難しいことから調査を終了することとした。1件については見解書を依頼することとした。新たに1件の調査を開始することとした。

次回開催：10月12日(金) 西宮市立勤労会館 第3会議室

~~~~~

広報・PR関連事業

~~~~~

第122回編集委員会WG

日 時 9月6日(木) 15:00~17:00

場 所 機振会館 6-60 会議室
出席者 宮主査以下 9 名
事務局 大橋
議 事

1. VOL. 32, NO. 4 (秋号) 進捗

秋号は数記事が未入稿であり、1 記事が延期となったが、ほぼ予定通り進んでいる。

2. VOL. 33 年間企画状況と記事提案

挑戦及び身近な F.P. の記事が相変わらず少なく、春号に 1 記事予定している程度。留学者は新年号に 1 記事予定している。IoT 特集は 5 社が執筆可能なため、新年号に 3 社、秋号または翌年新年号に 2 社予定する。表題は「編集委員企業における IoT」でなく「フルードパワーにおける IoT」とする。

3. 機関誌のあり方検討

執筆要領の改訂検討について、著作権問題と商標権の表示に関する記述を主体に議論した。特に著作権については、文責は執筆者となるものの版権の帰属する工業会でも著作権侵害とならないような手法を弁護士に確認しておくべき、との意見が出された。

編集委員会での報告内容について、宮主査作成資料を基に検討した。

次回開催：第 123 回 WG 12 月上旬として調整

~~~~~  
中小企業関連事業  
~~~~~

中小企業 WG マレーシア研修視察団説明会・結団式
日時 9 月 25 日 (火)
場 所 機械振興会館 311 号室 JFPA 会議室
参加者 高野 団長、星 副団長 以下 9 名
事務局 堀江
報 告

平成 30 年度中小企業委員会 WG の研修視察先として、マレーシア研修視察団を結成し、その説明会及び結団式を開催した。

はじめに各団員の自己紹介の後、旅行社の(株)アーク・スリー・インターナショナル・市川様より日程等の全容説明があり、事務局からは訪問先のジェイテクト・マレーシア工場、KYB・マレーシア工場、JETRO クアラルンプール事務所について説明すると同時に団員の報告分担を打合せた。

その後、高野団長の乾杯挨拶により結団式を開催し、出発前の懇親を深めた。

~~~~~  
振興対策事業  
~~~~~

IFPEX 実行委員会

日 時 9 月 7 日 (金)

場 所 機械振興会館 B2-2 会議室

出席者 矢島委員長以下 8 名

事務局 唯根

議 事

次回の IFPEX に関して実行委員より改めて社内に取りまとめた意見を発表頂いた後に採決を行い、全会一致で「2021 年秋 (9 月)」に開催をすることで決定した。また、IFPEX2021 第 1 回実行委員会の開催時期に関して、確定した会期の 2 年前を目途に開催することになった。

併せて、委員から意見としてあがった IFPEX の位置付、開催目的についても今後長めの準備期間で検討していくことになった。

~~~~~  
今後の主要行事予定  
~~~~~

☆10 月 11 日 (木) 西日本支部総会
第 84 回理事会

(場 所) 都ホテルニューアルカイク

☆10 月 12 日 (金) 西日本懇親ゴルフ会

(場 所) 西宮カントリー倶楽部

☆11 月 1 日 (木)～11 月 6 日 (火) JIMTOF2018

(場 所) 東京ビッグサイト

☆12 月 21 日 (金) 第 29 回政策委員会

(場 所) JFPA 会議室

*平成 31 年

☆1 月 16 日 (水) 年始会・第 85 回理事会

(場 所) 東京プリンスホテル (芝公園)

☆3 月 29 日 (金) 第 30 回政策委員会

(場 所) JFPA 会議室

☆4 月 19 日 (金) 第 86 回理事会

(場 所) ザ・プリンスさくらタワー
(高輪)

☆5 月 16 日 (木) 第 20 回定時総会

(場 所) 東京プリンスホテル (芝公園)

☆5 月 17 日 (金) 第 58 回 JFPA ゴルフ懇親会

(場 所) 程ヶ谷カントリー倶楽部

~~~~~  
9月に開催された当会各委員会に出席された  
皆様は以下の通りです。(敬称略)

// 辻田智 (日東工器)  
// 北村剛 (油研工業)  
// 高牟礼辰雄 (JFPA)

(国際交流事業)

講演会：中国のイノベーションと「中国製造 2025」

開催日 9月5日(水)

国際委員会

委員長 新開 諭 (甲南電機)  
参加者 中村 真 (NOK)  
// 宇佐美 伸 (NOK)  
// 安藤 進 (オリオン機械)  
// 谷 伸幸 (神崎高級工機製作所)  
// 富田光英 (KYB)  
// 竹下文章 (KYB)  
// 松田庄三郎 (光陽精機)  
// 藤井茂男 (光陽精機)  
// 近藤綱亮 (三明電機)  
// 澤田啓支朗 (タイヨーインタナショナル)  
// 山本庄一郎 (ナブテスコ)  
// 稲子徹哉 (日東工器)  
// 青木 馨 (日本エンギス)  
// 荊 超 (日本バルカー工業)  
// 北原敏正 (日本ピスコ)  
// 村上 晃 (日本ピスコ)  
// 前 博人 (MORESCO)  
// 村田泰典 (三一重工)  
// 尾崎一朗 (尾崎ギヤー工業)  
// 金 国山 (協育歯車工業)  
// 大熊淳司 (小原歯車工業)  
// 小野信男 (東京テクニカル)  
// 山崎 隆 (長岡歯車製作所)

(標準化事業/規格事業)

油空圧継手・ホース分科会

開催日 9月5日(水)

出席者

主 査 板井淳一 (横浜ゴム)  
委 員 岩崎宏文 (イハラサイエンス)  
// 横岡慎吾 (ブリヂストン)  
// 小島博 (十川ゴム)  
// 金城良 (東京計器)  
// 緒方征嗣 (日東工器)  
// 小島研二 (日本ホース金具工業会)

空気圧システム分科会

開催日 9月6日(木)

出席者

主 査 増尾秀三 (CKD)  
委 員 張本護平 (SMC)  
// 阪本晴康 (TAIYO)  
// 佐々木政彰 (アズビル TACO)  
// 門間崇宏 (コガネイ)  
// 神戸孝典 (甲南電機)

油空圧シリンダ分科会

開催日 9月7日(金)

出席者

主 査 渡部文雄 (日本シリンダ共同事業)  
委 員 東川智信 (TAIYO)  
// 塩田浩司 (コガネイ)  
// 赤松直人 (甲南電機)

(標準化事業/ISO 対策事業)

油空圧シール分科会

開催日 9月11日(火)

出席者

主 査 南暢 (日本バルカー工業)  
委 員 北川泰章 (CKD)  
// 宮本博夫 (NOK)  
// 中尾雅司 (NOK)  
// 鈴木康永 (SMC)  
// 曾谷崇 (甲南電機)  
// 但木郁夫 (荒井製作所)  
// 太田正貴 (阪上製作所)  
// 假屋隆広 (三菱電線工業)

空気圧流量測定分科会

開催日 9月20日(木)

出席者

主 査 妹尾満 (SMC)  
委 員 若原洋行 (TAIYO)  
// 小関亨 (TAIYO)  
// 佐々木政彰 (アズビル TACO)  
// 斉藤悠 (コガネイ)  
// 八手又秀浩 (日本ピスコ)  
// 香川利春 (東京工業大学)

空圧継手・チューブ分科会

開催日 9月25日(火)

|                 |   |                  |
|-----------------|---|------------------|
| 出席者             | 〃 | 細井耕平 (堀内機械)      |
| 主 査 浅里信之 (ニッタ)  | 〃 | 黒須 寛 (イハラサイエンス)  |
| 委 員 條茂幸 (SMC)   | 〃 | 岩崎宏文 (イハラサイエンス)  |
| 〃 高梨暁人 (SMC)    | 〃 | 内田 晃 (日本アキュムレータ) |
| 〃 細谷映之 (アオイ)    | 〃 | 古本 篤 (三輪精機)      |
| 〃 八手又秀浩 (日本ピスコ) | 〃 | 石丸典幸 (豊興工業)      |
|                 | 〃 | 安藤 進 (オリオン機械)    |

油圧フィルタ・作動油分科会

開催日 9月26日(水)

出席者

主 査 難波竹己 (日本ポール)  
 委 員 三好真介 (MORESCO)  
 〃 遠藤剛 (SMC)  
 〃 佐藤泰路 (ボッシュ・レックスロス)  
 〃 山田高志 (大生工業)

技術委員会空気圧部会第551回特許分科会

開催日 9月21日(金)

出席者

幹 事 細田一也 (CKD)  
 委 員 井野雅康 (SMC)  
 〃 河野喜之 (甲南電機)  
 〃 今野英俊 (コガネイ)

(技術調査事業)

ADS 国際標準化推進委員会 (第3回)

開催日 9月10日(月)

出席者

委員長 池尾 茂 (上智大学)  
 顧 問 山口 惇 (横浜国立大学)  
 委 員 柳田秀記 (豊橋技術科学大学)  
 〃 鈴木健児 (神奈川大学)  
 〃 吉田太志 (KYB)  
 〃 鳥居良介 (阪上製作所)  
 〃 内田 晃 (日本アキュムレータ)  
 〃 井口 務 (廣瀬バルブ工業)  
 〃 黒須 寛 (イハラサイエンス)

(広報・PR 関連事業)

第122回編集委員会WG

開催日 9月6日(木)

出席者

主 査 宮 能治 (KYB)  
 副委員長 水野純一 (CKD)  
 委 員 神戸孝典 (甲南電機)  
 〃 小辻一雄 (コガネイ)  
 〃 豊田敏久 (川崎重工業)  
 〃 永井茂和 (SMC)  
 〃 東川智信 (TAIYO)  
 〃 松島嘉則 (阪上製作所)  
 〃 諸橋 博 (東京計器)

ワグナーバー 根岸喜代春 (経済産業省)

〃 渡部圭次 (経済産業省)  
 〃 寿屋早百合 (野村総合研究所)  
 〃 大野淳一 (JFPA)  
 〃 岩崎宏文 (イハラサイエンス)

学 生 岡部仁美 (信州大学)

〃 渡辺あかり (信州大学)  
 〃 藤本裕敬 (豊橋技科大学)

(中小企業関連事業)

中小企業WGマレーシア研修視察団説明会・結団式

日時 9月25日(火)

参加者

団 長 高野和治 (光陽精機)  
 副団長 星 蔵貴 (神威産業)  
 団 員 舘 満正 (神威産業)  
 〃 板垣達郎 (光陽精機)  
 〃 高橋龍太郎 (大生工業)  
 〃 澤田啓支朗 (タイヨーインタショナル)  
 〃 杉崎秀之 (廣瀬バルブ工業)  
 〃 尾崎佑樹 (堀内機械)  
 〃 浅香紀之 (マツイ)  
 〃 木下純夫 (三尾製作所)

技術委員会 水圧部会 (第2回)

開催日 9月11日(火)

出席者

部会長 宮川新平 (JFPA)  
 委 員 大林義博 (KYB)  
 〃 井口 務 (廣瀬バルブ工業)  
 〃 田邊康伸 (廣瀬バルブ工業)  
 〃 鳥居良介 (阪上製作所)  
 〃 相澤健二 (日工産業)

旅行社 市川文仁 (アークスリーインタショナル)

(振興対策事業)



空気圧本部会

開催日 9月4日(火)

出席者

本部長 湯原真司(CKD)

副〃 小倉浩史(SMC)

会計 長谷川靖(甲南電機)

委員 安藤 進(オリオン機械)

〃 西村安弘(クロダニューマティクス)

〃 富田英樹(コガネイ)

〃 澤田啓支朗(タイヨーインタナショナル)

〃 柚木弘司(日本精器)

IFPEX 実行委員会

開催日 9月7日(金)

出席者

委員長 矢島俊也(油研工業)

委員 谷尾和彦(SMC)

〃 湯浅貴之(神威産業)

〃 水 悟史(川崎重工業)

〃 村井謙文(CKD)

〃 杉村登夢(日本アキュムレータ)

〃 久保康之(不二越)

〃 田中健太(ボッシュ・レックスロス)

〃 片野 優(油研工業)

シリンダ部会

開催日 9月12日(水)

出席者

部会長 河井 崇(KYB)

委員 渡辺和功(大垣鐵工所)

〃 増井丈雄(日本シリンダ共同事業)

〃 沢部 充(三尾製作所)

〃 小泉 清(油研工業)

産機・建機部会

開催日 9月13日(木)

出席者

部会長 寺田 稔(ダイキン工業)

委員 水 悟史(川崎重工業)

〃 木元隆之(KYB)

〃 松井基幸(島津製作所)

〃 大野和則(ボッシュ・レックスロス)

〃 脇村良二(ボッシュ・レックスロス)

〃 堀 讓二(油研工業)

~~~~~

月間行事概要

~~~~~

<9月>

4日(火)

・振興対策(委)空気圧本部会

5日(水)

・標準化(委)油圧継手・ホース分科会

6日(木)

・標準化(委)空気圧システム分科会

7日(金)

・標準化(委)油空圧シリンダ分科会

・振興対策(委)IFPEX 実行委員会

11日(火)

・標準化(委)油空圧シール分科会

12日(水)

・振興対策(委)シリンダ部会

13日(木)

・振興対策(委)産機・建機部会

20日(木)

・標準化(委)空気圧流量測定分科会

21日(金)

・技術(委)空気圧部会第551回特許分科会

25日(火)

・標準化(委)空気圧継手・チューブ分科会

26日(水)

・標準化(委)油圧フィルタ・作動油分科会

☆経済産業省ホームページ

経済産業省のHPでは①政策②申請・届出③統計④政策提言⑤情報公開のリンク等から必要な情報が得られます。

<http://www.meti.go.jp/>

☆中小企業庁ホームページ

中小企業庁HPでも中小企業向け施策に関する多くの情報が得られます。

<http://www.chusho.meti.go.jp/>